

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【土合中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	数値の上では現状を維持していることが読み取れる。一部改善が見られる部分もあるところから、生徒の学力が少しずつ定着しつつあることも読み取れる。今後もスタディサプリ等の活用を充実させ基礎学力の定着を推進する。また、できたことを認め、生徒にフィードバックすることで生徒に自信を付けさせるなど、日々の授業の振り返りや研究を通して、指導と評価の一体化を実現することを目標に教員の学びを深めていく必要がある。
思考・判断・表現	「知識・技能」と比較すると伸び悩む傾向にあることが読み取れる。「知識・技能」自体は定着しつつあることから継続して学習に取り組み、様々な課題を通して自分のもつ知識等を活用し試行錯誤していく必要がある。来年度も、研修や教科会などを通して十分な共通理解のもと、各科目の専門性を生かした授業を実施し、生徒個人の特色ある考え方や思考を向上させる。
主体的に学習に取り組む態度	「見直しをし、次の学習につなげることができた」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の2項目から分析すると本校は生徒が主体となって活動する取組を重要視できていることがわかる。今の学習意欲を維持し、より学習への興味を抱かせるような魅力ある授業を実践できるようにしたい。そのためにも、ICTを活用した生徒の主体的活動を多く取り入れられるよう、研修等で様々な方法を紹介していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の自校の調査結果より、国語、数学の「知識・技能」の項目を向上させる。また、R5年度さいたま市学習状況調査において、国語は「書くこと」、数学は「数と式」の分野の中でも知識・技能に関する平均正答率をR4年度より自校の結果を上まわらせる。	⇒ スタディサプリやミライシードを活用し、授業内外に関わらず復習や予習が行える環境を整える。教員からも積極的にスタディサプリを通して課題を出し、基礎となる知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の自校の調査結果より、国語、数学の「思考・判断・表現」の項目を向上させる。また、R5年度さいたま市学習状況調査において、国語は「書くこと」、数学は「数と式」の分野の中でも思考・判断・表現に関する平均正答率をR4年度より自校の結果を上まわらせる。	⇒ 各教科の授業内で応用的な課題に対し十分な時間を与えて考えさせ、意見を共有する場を積極的に設定する。その際、知識・技能を応用して考えることができる課題をよく練り上げ、各教科で身に付く思考の姿勢の基盤作りを図る。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の質問において、主体的に学習に取り組む姿勢を表す質問への肯定的な回答の割合をR4より向上させる。	⇒ 各教科で各単元に対する十分な教材研究を行い、ICTを積極的に活用することで生徒の主体的な学びを促す。また、振り返りの時間や評価をフィードバックする時間を確保することで、生徒が主体的に学習に取り組む場面を整える。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	スタディサプリ・ミライシード等を十分に活用できたとは言えないが、全国学力・学習状況調査においては大きく改善された状況は見られないものの現状を維持していることが伺える。さいたま市学習状況調査において、国語は「書くこと」においては1pt程度の改善が見られ、数学は「数と式」に関して昨年度の値を維持することができた。	B
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査において国語では改善がみられたものの、数学では現状維持にとどまった。また、R5年度さいたま市学習状況調査において、国語は「書くこと」に2ptの向上が見られ、数学では「数と式」の平均正答率をR4年度より自校の結果を3pt程度下回る結果となった。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の質問項目にて、「見直しをし、次の学習につなげることができた」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」は5pt程度の向上、「相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか。」では高い水準を保つことができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語では前年度よりも改善が見られた項目が多く、数学・英語では前年度より下がっている項目がいくつか見られる。また教科ごとに苦手と思われる項目があり、国語では「情報の扱い方に関する事項」が改善が見られるものの苦手とする生徒が多いようである。数学では「図形」「データの活用」の項目が前回のよりも正答率が低下、英語では「書くこと」が低いことから、自分が獲得した情報を自分の中で整理したり、活用したりすることが苦手である傾向が読み取れる。各教科で小テスト等反復して知識を定着させる活動に加え、課題に対して自分なりに考える場面も必要である。
思考・判断・表現	国語に関しては昨年度の自校に比べ改善が見られ、アウトプットする力は定着していると考えられる。しかし、知識・技能に比べると思考・判断・表現の問題を苦手としている生徒が多く、継続した学習が必要である。数学に関しては前年度に比べ正答率の向上がみられるものの「図形」の項目が低いことから知識の不足や知識をもっていない、それを生かす課題などには苦手意識をもつ傾向が見られる。英語に関しては「書くこと」が低いことから、文法が分かっているにもかかわらず文章を構築するまでの習熟度には至っていない。授業の中で既出事項との関連付けを強調するとともに、自分なりに表現する授業の展開が必要である。
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査においてはデータがないため比較はできないが、知識・技能の結果が上回っていることから知識を獲得することに努めている傾向にある。しかし、思考・判断・表現の項目の正答率が低めな傾向にあることから、獲得した知識を使って課題に対処していくことに苦手意識をもっていると考えられ、与えられた内容を活用しきれない傾向が見て取れる。このことから「自分で考えてきた」という成功体験を重ね、主体的に学習に取り組む意欲を身に付けさせる必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	理科を除いて全体的に前年度の自校の結果より2pt程度上回る結果となっている。特に国語の「言語文化に関すること」「読むこと」では3pt程度向上しており、学習意欲を維持させたい。数学に関しては「図形」の項目が前回より5pt下回る結果となったが、「数と式」などの基礎となる部分は定着しているため、知識を活用する事を意識する必要がある。理科では「エネルギー」「生命」、社会では歴史分野で前回結果を大きく下回っており日常生活で目に見えない物に対して苦手意識を既にもっている部分もあると考えられる。
中2	全教科で前回の自校の結果より3pt下回っている状況が見られる。国語においては「書くこと」が前回よりも2pt向上しており、今後もその部分を中心に下がってしまった他の項目も伸ばしていきたい。数学では「数と式」が基礎となる重要な項目であることから、まずはそこから振り返って学習する必要がある。理科では「エネルギー」「粒子」、社会では歴史分野で前回結果を大きく下回っており日常生活で目に見えない物に対して苦手意識を既にもっている部分もあると考えられる。
中3	R4年度の自校の結果と比べて、国語では2pt、数学では1pt下回っている。継続して学習をしなければならない教科だが、知識や学んだことを活用する応用的な問題に対して苦手意識をもち、自分の中で身に付いたといえるレベルにまで到達していないことが伺える。授業の中でも時間をかけて理解を促し、身に付けさせていく必要がある。理・社に関しては3pt程度向上しており、各分野などの復習から学力が定着しつつあることが伺える。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。